

卒業論文の評価の基準

卒業論文は、本文の構成、書式、指定枚数等の外形的な要素が、指定された規格に正しく従って作成される必要があることは言うまでもないが、論文の評価においては、先行研究を精査し、その内容を理解し、必要な参考文献を正確に引用しているかどうかに加え、論文における、問題設定の明瞭性やオリジナリティ、論述の整合性と客観性、結論の明確さとその独自性等が問われることになる。真宗学科では、そうした卒業論文の評価の基準を、概ね下記のとおりに定めている。卒業論文の作成と提出にあたっては、各自、この基準に照らして十分な自己点検を行っていただきたい。

1. 卒業論文の規格・書式についての評価基準

卒業論文が受理されるためには、真宗学科で定められている、下記の基本的な規格、書式に係る要件（構成、書式、指定枚数等）を充足していることが、最低限として必要である。詳細は、真宗学科作成の「卒業論文作成マニュアル」を参照）。

- ① 装丁：サイズ・色など指定のペーパーファイルを使用する。綴方は、縦書きは右綴、横書きは左綴。ファイルには、論文題目記入用紙のラベルに必要事項を正しく記入して貼付し、ファイル背表紙に整理番号を漢数字で書き入れること。
- ② 用紙：無地のA4サイズ用紙を使用する。
- ③ 1 ページの文字数と行数は指定されたとおり正しくフォーマットする（縦書：1行全角50字、1ページ16行／横書：1行全角32字、1ページ25行）。
- ④ 使用する文字の書体は明朝体、サイズは10.5ポイントを基本とする。
- ⑤ 論文の構成要件：中表紙、目次、本文（序論、本論、結論）、註（文末註）、参考文献等の卒論としての構成要件が全てそろっており、また乱丁・落丁がないこと。
- ⑥ 本文のページ数は、各ページの中央下部に、算用数字で記入する。
- ⑦ 註記の体裁は、文末註とし、註は本文の後に、通し番号を付して記載する。
- ⑧ 見出し項目の前の改行など、本文中の空白行や改ページ（序論と本論の間、本論と結論の間、本論の各章間、各節間）は卒論マニュアルの指定通りにフォーマットする（序論、本論、結論の間はそれぞれ3行、「本論」中の「章」の間は2行、「節」と「項」の間は1行空ける。ただし見出し項目が頁の最後の行になる場合には、見出しの項目の行を送って改ページ可）。
- ⑨ 図表類を本文に挿入する場合、その分量や配置の仕方は「卒論マニュアル」の指示通り適切に行うこと。
- ⑩ 本文（序論、本論、結論）の過不足の許容範囲は、それぞれ指定ページ数（25頁）の1割以内。
 - ・ 指定ページ数の下限（22.5ページ/23ページの中程）に満たない論文は受理されないので要注意。
 - ・ 指定ページ数（25頁）を超過した場合は、中表紙に指導教授の認印が必要。また、超過した分量が、指定ページ数の1割（27.5ページ/28ページの中程）を超えた場合は減点対象となるので注意すること。

2. 卒業論文の本文（註と参考文献を含む）についての評価基準

卒業論文の本文（註と参考文献を含む）については、文学部履修要項に記載の「卒業論文ルーブリック」に示されている「卒業論文の学修進度の目安」を踏まえて、真宗学科では、さらに学科独自の評価基準を下記のように定めている。

- ① 論文の「序論」におけるテーマ設定と問題提起の明瞭性、特に卒論の「題目」として提示されたことが、「序論」において、具体的かつ明瞭に論文のテーマとして定式化できているか。
- ② 論文の「本論」の構成について、（１）本論の「章、節」は論理的に構成されているか、（２）本論の各章、各節内の段落の構成は適切であるか。
- ③ 論文の「本論」における情報収集と分析能力、および論述の仕方については、特に下記の項目に注意して評価する。
 - ・ 「序論」で設定したテーマを「本論」で論じるために必要な文献、資料、先行研究等を十分に調査、収集しているか。
 - ・ 調査、収集した、文献、資料、先行研究等を正確に理解して論じられているか。
 - ・ 「本論」の論述において、「序論」で設定したテーマに合致した視点、分析の視角等が提示されているか。
 - ・ 「本論」で参照した文献、資料、先行研究等の内容と、「本論」の論述の間の論理的整合性が保たれているか。
 - ・ 「本論」の論述中の個々の事実の分析に、独断や知識不足に基づく飛躍や見落としはないか。
 - ・ 「本論」の論述において、自己の求める結論を得るために、先行研究で指摘されている重要な問題点を無視して論述をすすめたり、論述を自己の求める結論へ誘導するために、文献、資料などを恣意的に用いていないか。
 - ・ 「本論」の論述の内容に独創性は見られるか。
 - ・ インターネットの情報やデータを参照し、その内容を論文で用いる場合に「卒論マニュアル」のルールに従って適切にもちいられているか(学術的検証を経ていないホームページ、例えばウィキペディアWikipediaなど、を論拠として利用してはいけない、等のルールを正しく守っているか)。
- ④ 論文の「結論」については、特に下記の項目に注意して評価する。
 - ・ 「本論」で論じられた内容から導きだされた「結論」は明晰か。
 - ・ 「本論」で論じられた内容から導きだされた「結論」に独創性は見られるか。
- ⑤ 論文の「引用、註記、参考文献」については、特に下記の項目に注意して評価する。
 - ・ 論文の本文（「序論、本論、結論」）中の引用文や註記は、論述を展開するうえで適切な箇所に置かれているか、またその内容と分量は妥当であるか。
 - ・ 「本論」の論述において、文献の引用に際しては、その出典記載を含めて「卒論マニュアル」に指示されている引用体裁に準拠し、その部分が、引用文であることが一目で判別可能なように明示されているか。

◇ 他人の書いた文章の丸写しや、いわゆるコピペ（コピー&ペースト）で、他人の作成した文章やデータなどの情報を、あたかも自分の文章等のように装い、論文中に利用することは、剽窃、盗作、盗用であり、そのような事実が発覚した場合には、卒業論文としての単位は認定されない。

- ・ 「参考文献」は「卒論マニュアル」に指示されている書式に準拠し、適切な表記がされているか。

3. 卒業論文（論文全体）の文章表現力についての評価基準

卒業論文は、古典や外国語の文献等からの引用箇所や、外国語で論文を執筆する場合を除いて、現代日本語の標準的な表現と語法に基づき論述がなされることは言うまでもないが、真宗学科では、卒業論文（論文全体）の文章表現力について、文学部履修要項に記載の「卒業論文ルーブリック」に示されている「卒業論文の学修進度の目安」を踏まえて、さらに特に下記の項目に瑕疵がないか注意して評価する。

- ① 論述の中に文意が確定できないような表現はないか。また論文全体の論旨が通っているか。
- ② 論文において、客観的な事実（「～である」等）と、著者の意見（「～と考える」等）との区別が明確になっているか。
- ③ 論文中で使用している学問的概念や学術用語について十分に理解し、適切に使用されているか。
- ④ 論文の本文、註等の文体は「常体」の「である調」に統一されているか（引用文で使用されている場合を除き、論文の本文、註等で「敬語体、口語体、です・ます調」を用いることは不可）。
- ⑤ 論文中の句読点や括弧類等の表記の仕方は適切であるか。

以上

龍谷大学文学部真宗学科